



三島 伸雄 教授がオーストリア・ドローセンドルフ市にて ドイツ語で鹿島市肥前浜宿のまちづくりを紹介

【概要】

都市工学部門の三島 伸雄 教授が、オーストリアで数少ない城郭都市として残るドローセンドルフ市において、ドイツ語で鹿島市肥前浜宿のまちづくりを紹介しました。会場にはドローセンドルフ市長の他、地域住民約 20 名が参加し、歴史的な地方都市の保存やまちづくりをテーマに、活発な意見交換が行われました。本学の学生も同席し、三島教授が地域住民等とともに進めてきた肥前浜宿での取り組みを、海外の地域住民に広く知ってもらう貴重な機会となりました。

【本文】

都市工学部門の三島 伸雄 教授が、オーストリアで数少ない城郭都市として残るドローセンドルフ市において、ドイツ語で鹿島市肥前浜宿のまちづくりを紹介しました。会場にはドローセンドルフ市長をはじめ、地域住民約 20 名と本学の学生が参加し、歴史的な地方都市の保存やまちづくりをテーマに意見交換が行われました。三島教授が地域住民等とともに 25 年間にわたって取り組んできた肥前浜宿でのまちづくりについて、海外の地域住民に広く知ってもらうとともに、人口減少や産業育成といった共通の課題を抱える地方都市同士として有意義な議論を交わすことができました。

ドローセンドルフ市は、オーストリアの北部でチェコとの国境近くにある歴史的な城郭都市です。オーストリアには、城郭都市が 2 都市しか残っておらず、その一つがこのドローセンドルフ市です。ここでは過去 5 年間、ウィーン工科大学建築プランニング学部の地域プランニング研究室が、Land Uni（大学のない地方の大学）と称して、地域の活性化に取り組んでいます。

三島教授は 1999 年、本学から文部科学省在外研究員としてウィーン工科大学に 1 年間に在籍し、当該研究室に所属して以来、継続的な交流関係を築いてきました。その間、同研究室でドローセンドルフに関わってきた教員や学生を肥前浜宿に招き、現地のまちづくりを紹介するなど、交流を重ねてきました。

今回は、三島教授がドローセンドルフに関する資料収集のために渡航を申し出た際、同研究室から依頼を受け、ドローセンドルフの城を会場に、肥前浜宿のまちづくりを紹介する講演会をドイツ語で行うことになりました。

三島教授は、英語を話せない住民もいる中で、ウィーンへの交換留学中（2 年半在籍）に習得したドイツ語を駆使し、肥前浜宿での 25 年間にわたる取り組みを紹介してきました。また、講演後には、ドイツ語で日本とオーストリアのまちづくりにおける相違点や類似点について意見交換を行いました。

ドローセンドルフは石や煉瓦を建材とする一方、肥前浜宿は木造建築が中心であるため、

ヨーロッパの街と日本の都市とでは耐久性や災害への脆弱性に多くの違いがあります。そうした相違点を踏まえつつ、類似する町並み保存の課題について議論を深めることができ、本学から参加した学生も含めた国際交流が実現したことは、大きな成果となりました。



講演をする三島伸雄教授



講演会場での写真



地域住民との写真，左端がドローセンドルフ市長



理工学部との学生との交流